

株式会社エヌ・ピー・シー

■平成24年度テーマ

微細精密金属プレス製品の生産工程効率化による価格競争力強化と受注拡大

■平成24年度概要

電子部品のプレス加工において、国内生産を維持・拡大するためには、生産コスト低減が課題となっている。そこで、「高速精密プレス機導入」による生産の自動化及び新規付帯金型開発による取り個数UP(生産性向上)を実施し、プレス加工部品のコスト低減を実現させ、積層コンデンサ用金属端子の受注拡大を目指す。

■平成24年度分類

- ＜事業類型＞ 設備投資のみ
- ＜競争力強化の形態＞ 生産プロセス強化型
- ＜22分野技術＞ 金属プレス加工

■事業の概要と成果

電子部品のプレス加工において、国内生産を維持・拡大するためには、生産コスト低減が課題となっているが「高速精密プレス機」を導入したことで、新規付帯金型開発による取り個数UP並びに回転数UP(生産性向上)が可能になり、プレス加工部品のコストを約3割低減することができるようになった。

■平成25年度テーマ

プレス試作技術開発による新規開発品の短納期対応力強化

■平成25年度概要

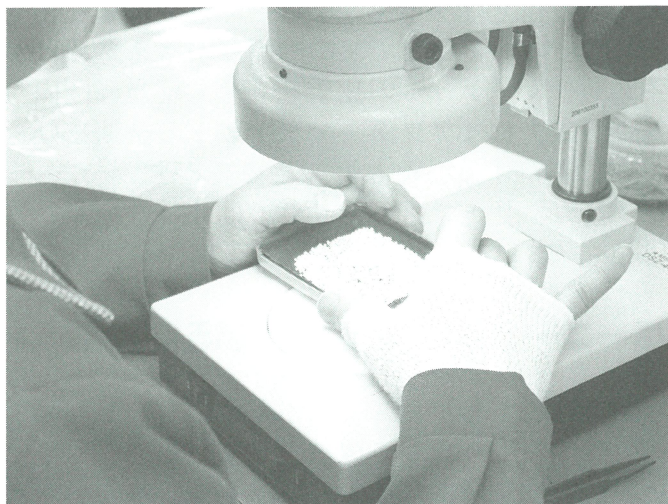
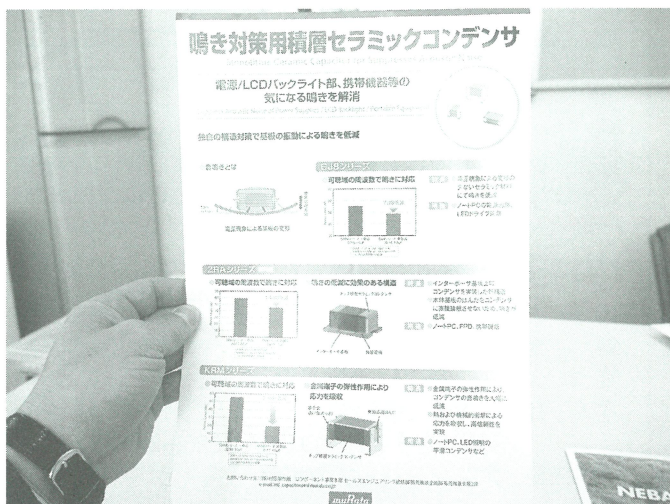
主要取引先の新規開発品の受注を得るためには、試作段階からの対応が必要であり、試作品の短納期作製が課題となっている。そこで、短納期対応のプレス試作技術を開発することで、新規開発品の量産受注を獲得する。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
精密加工
- ＜事業類型＞ 一般型
設備投資のみ

■事業の概要と成果

短納期対応のプレス試作金型開発及び万能研削盤の導入により、製品の小型化かつ高精度化が必要な試作金型部品の作成が最短3日から最短1日に納期短縮可能になったと共に、金型の段取り、調整、メンテメンテナンス時間を半減できるようになったことで、新規開発品試作の短納期対応に大きく貢献でき、新規開発品の量産受注獲得に優位性を得ることが可能になった。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社エヌ・ピー・シー（上伊那郡箕輪町）

自動化と少数精鋭化を積極的に進め、
より付加価値の高いものづくりを実現。

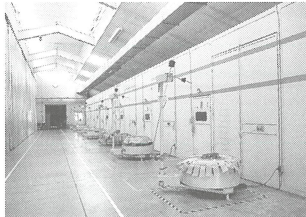
できる限り自動化を図る

できる限り少ない人員で、より付加価値の高い製品をつくる。それは、あらゆるものづくり会社にとって理想の姿。この理想を追求しているのがエヌ・ピー・シーです。

同社は、1963年創業の（有）根橋製作所を中核企業に、（株）ネハシ、プラスチック成形の（株）ハヤシテクノ、自動省力化機械開発・製造のTEEM（株）の5社でつくる「根橋グループ」の一員。根橋製作所、ネハシとともに、電子部品を構成する精密部品、リードフレーム、電池部品などの金属プレス加工と金型設計・加工を中心に展開しています。グループ化により、金属と樹脂の複合部品のワンストップ生産が可能であり、専用自動機を自社開発・製造できることが強みになっています。

「できる限り自動化を図り、少人数で仕事をすることがポリシー」と根橋弘明社長。そしてこう続けます。「実は人が欲しい時、いくら募集しても採用できなかったんです（笑）。ならば自動化するしかない。こんな人の少ない会社には仕事は出せないと言われた時代もありましたが、今は社員9人でこれだけの仕事ができるのかと評価されています」。まさに、禍を転じて福となす。

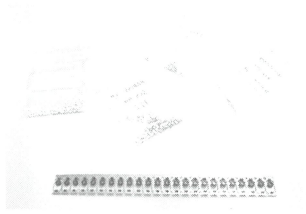
現在は6人で業務をこなし、3人はグループ内で金型技術を研さん。将来は金型開発・製造からプレス加工まで一貫して手がけられる技術者への成長を期待されています。「プレス屋にとって金型は命。自社技術化に取り組み、世界トップクラスの精度を持つスイス、ドイツの機械を導入してグループ内で製造しています。精度には自信があります」。



外部に音、振動を漏らさない
「完全防音ボックス」

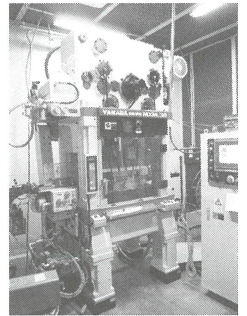


顕微鏡による電子部品の出荷検査



製造する電子部品

さらに「プレス屋らしくない工場にしよう」を合言葉に、同社とネハシでは、プレス工場につきものの音や振動が外に漏れない環境づくりにも積極的に取り組んでいます。



高精度の
最新プレス加工機

“禍を転じて福となす”

ここ数年、携帯電話、ノートパソコンなどの電源回路でコンデンサの振動による「音鳴き」が課題となっています。

同社では取引先大手電子部品メーカーの要望に応え、「音鳴き」を解決する微細な金属部品を製造。「音鳴き対策用コンデンサ」の製品づくりに大きな役割を果たしています。これは、ものづくり補助金による高精度な最新プレス加工機の導入で可能になったもので、大幅な加工スピードアップとコストダウンも実現しました。今後自動車への搭載も見込まれ、今後さらに需要が増えると期待しています。

「当社には営業がいません。声がかかるのを待っているのが、取引先から来るのは他社がやりたがらない難しい図面ばかり。それを何とかこなしてきたことが技術力の向上につながっています」と根橋社長。これもまた“禍を転じて福となす”。この自然体が好循環を生んでいます。



株式会社エヌ・ピー・シー

代表者 代表取締役社長 根橋弘明
創業 1998（平成10）年10月
資本金 1,000万円 従業員数 9人
本社 上伊那郡箕輪町
大字中箕輪10500-38



TEL.0265-79-9310 FAX.0265-79-9312

事業内容 金属キャップ、リードフレーム、複合成形部品、乾電池・2次電池部品の製造、省力化機械の販売